

日体大スポーツ危機管理学研究室主催

# 「スポーツ中の熱中症」

## について真剣に考える



2017年4月22日(土) 14時30分～17時00分

日本体育大学 世田谷キャンパス 教育研究棟 2204 教室

毎年スポーツ現場で繰り返される熱中症事故。これらは、指導者の正しい知識の不足に起因していることが少なくありません。また、「選手の強化」を最優先し、生徒の体調を無視した「しごき」による場合すらあります。

本勉強会では、部活動やスポーツ練習中に熱中症で死亡した2つの重大事例（大分県立竹田高校剣道部熱中症事件／東大阪市プールサイド熱中症事件）を、熱中症やスポーツ危機管理学の専門家、ご遺族とともに検証しながら、熱中症を防ぐにはどうすればいいのか、また、重症化させないためにはどうすればいいのかについて、真剣に考え、議論します。

スポーツをする方、スポーツ指導者を目指す方、部活動顧問の方、子どもに関わる仕事をしている方、決して他人事ではありません！

お問い合わせ先：

日本体育大学スポーツ危機管理学研究室 南部  
電話：045-479-7115 E-mail: nambu3@nittai.ac.jp

## 【大分県立竹田高校剣道部熱中症事件】

2009年8月22日、外気温30℃を越の夏休みの部活練習中、顧問は主将の工藤剣太君（17）に「ちゃんとできていない」と一人だけ多く打ち込みをさせ、他の生徒に、「ちゃんとできているか」の「合否」を決めさせた。その後剣太君は「もう無理です」と顧問に申告したが取り合われず、1時間半以上水分補給なく練習が続けられ、竹刀を落としたのに気付かず竹刀を構えるなどし、やがてふらふらと歩き出し、壁に額を打ち付けて倒れた。しかし顧問は、倒れた剣太君の上にまたがり、「演技をするな」などと、10回程平手打ちをするなど暴行を加え、搬送先の病院において「熱射病」により死亡させた。

## 【東大阪市プールサイド熱中症事件】

国本考太君(24)は、東大阪市内の屋内プール施設で指導を受けながらクロールとバタフライを行っていたが、そのうちバタフライが遅れ始めたため、コーチがプールサイドでのシャドーストロークを指示した。国本君は異常な速さでこれを行い、全身発汗していたところ、タイムトライアルの指示がかかり、突然、いつもと違う場所に水分を取りに行こうとしたり、バタフライが指示されたのにクロールで泳ぎはじめ、制止しようとしても止まらないなどの明らかな異常行動を呈したため、プールサイドに引き上げられたが、高体温・全身痙攣で救急搬送され、死亡した。

## 後援：エンジェルズアーチ

部活動の重大事故でわが子を亡くした四遺族によって発足。子どもたちの事件、事故を防ぐために、医学界、産業界、教育界などさまざまな各専門分野を繋ぎ、社会全体で連携して子どもたちを守る活動に取り組む。



永島計教授

### 早稲田大学人間科学学術院教授

京都府立医科大学付属病院研修医、修練医、Yale大学医学部ポスドク、王立ノースシェア病院オーバーシーフェロー、大阪大学医学部講師を経て2004年4月から現職。博士(医学)京都府立医大。研究内容：人、実験動物における体液量および体液組成の調節機構の解析。体温に関わる調節機構およびそのリズム形成のメカニズムの解析。温度感覚(暑さ、寒さ、冷え)のメカニズムの研究とそれに関わる疾病の治療、予防法の開発。老人の体力維持増進プログラムの開発、性差の生理学。



南部さおり准教授

### 「日本体育大学准教授・横浜市立大学客員准教授

児童虐待の研究で修士(法学)・博士(医学)取得。横浜市立大学医学部医学科法医学教室助教を経て現職。児童の身体的虐待の研究の一環として頭部外傷の生体力学的研究を行い、柔道事故における急性硬膜下血腫の発症機序や医学的証明に関する論文多数。インターネットからダウンロード可能な「部活動の安全指導～先生方に心がけて頂きたいこと～」は、全国の教育委員会や学校、スポーツ施設などのテキストとして多く採用されている。日本体育大学で2016年より、学校・部活動事故の被害者を講師として迎える「学校・部活動における重大事件・事故から学ぶ研修会」を開催。メディアの注目を集めている。」